

2018年度第2回地域会議議事概要

2019年3月25日（月）、青森市内において地域会議を開催しました。

当会議は、私ども日本原燃㈱が地域の皆さまから信頼していただける企業となることを目指し、当社経営層が直接地域の皆さまのご意見やご指摘などをお伺いして、事業活動に活かしていくことを目的に開催しているものです。

【委員】

議長	井口 泰孝	様	東北大学名誉教授・弘前大学学長特別補佐
	芦野 英子	様	エッセイスト
	菊池 としえ	様	六ヶ所村女性団体連絡協議会会長
	北村 真夕美	様	(株)青森経営研究所代表取締役社長
	小林 昭男	様	(株)小林商工代表取締役

【会議風景】



【議題】

- ・原子燃料サイクル施設における新規制基準への適合性審査の状況について
- ・原子力規制委員会との意見交換の概要と今後の取組みについて
- ・働き方改革の取組みについて

【議事】

◆社長挨拶概要

地域会議委員の皆さま、はじめまして。

本日は、お忙しい中、今年度2回目の地域会議にご出席を賜り、誠にありがとうございます。1月1日より社長に就任しました増田でございます。よろしくお願いいたします。

本日は「東奥日報新町ビル」にお越しいただきありがとうございます。私どもの青森地域共生本社が、停電への備えや緊急時の対応等防災機能強化の観点から、この新しいビルに移転しましたので、ここで開催させていただくこととしました。

今後も、こちらで開催させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

本日は、「原子燃料サイクル施設における新規制基準への適合性審査の状況について」と、「原子力規制委員会との意見交換の概要と今後の取組みについて」、「働き方改革の取組みについて」の3点についてご意見を頂きたいと考えております。

また、閉会后には、青森地域共生本社移転とともに、このビルの2階に移転する「日本原燃サイクル情報センター」をご案内させていただきます。

まず、新規制基準への適合性審査の対応状況についてですが、再処理工場を始めとする各施設の新規制基準への適合性に関する当社からの説明を1月に終え、事業変更許可申請の補正書を3月8日に提出しました。先週3月20日に原子力規制委員会が開催され、再処理工場の規制側の審査書案について討議が行われ、我々に対し更なる確認が必要ということになりました。今週29日にこの委員会を受けた審査会合が開催され、規制庁から確認事項が示されると伺っておりますので、まずはしっかりと確認事項を把握して、準備を行い、ご説明してまいりたいと考えています。新規制基準への適合は、施設の更なる安全性向上を目指すものであり、地域の皆さまにご安心していただくため、引き続き合格に向けて全力で取り組んでまいります。

次に、原子力規制委員会との意見交換の概要と今後の取組みについてですが、2月18日に原子力規制委員会の方々と私ども日本原燃との意見交換の場を設けていただきました。意見交換では、「再処理工場の確実なしゅん工と安全安定な操業に向けた取組み」、「保安規定違反等のトラブルを踏まえた改善への取組み」、そして、「これらを進めていくうえでの私の決意」などをご報告しました。

更田委員長をはじめ委員の方々からは、会社の雰囲気改善や現場に対する工夫の姿勢には、一定の評価をいただけたと思っています。一方、保安規定違反等のトラブルが続いていることは日本原燃の組織的な問題であるなど、安全文化の弱みに対して心配する声も出されており、そのような点について意見交換し、また、当社への期待事項も伺うことができました。

詳細につきましては、のちほど私からご説明させていただきますが、規制委員の皆さまからいただいたご指摘については、しっかりと受け止め、今後の活動に活かしてまいります。

続いて、3点目の「働き方改革の取組みについて」ですが、当社は、労働時間の不適切な管理をくり返したことから、原因や対策について徹底的に議論し、2018年11月に「不適切な時間外労働に関するアクションプラン」を策定いたしました。

このアクションプランの一つとして、2018年12月1日に副社長を責任者とする「働き方改革本部」を設置しました。

労働時間管理等の法令順守はもちろんのこと、会社にとって社員は財産であることを改めて肝に銘じ、この「働き方改革本部」を中心に働きやすい職場への変革を進めてまいります。

最後になりますが、私は社長就任以来、社内に対し、機会あるごとに
○「伝える」ではなく「伝わる」コミュニケーションを実践していこう。
○一人ひとりが「広報マン」として、地域の皆さまの信頼をいただくのにふさわしい行動、ふるまいを取って行こう、ということを社員にお願いしています。

また、私自身、地域会議委員の皆さまや地域の皆さまから直接意見を伺い、その意見を社員たちに伝えることも役目だと思っています。

引き続き、地域の皆さまとの信頼関係をより良いものとするため、頑張っていきたいと思っています。

本日は、ぜひ忌憚のないご意見やご指導のほど、よろしくお願いいたします。

◆質疑応答

【委員】 それでは、委員の皆さまから、(1)原子燃料サイクル施設における新規規制基準への適合性審査の状況について、(2)原子力規制委員会との意見交換の概要と今後の取組みについて、(3)働き方改革の取組みについて、ご意見、ご提言をお願いできればと思います。よろしくお願いいたします。

【委員】 今後もしっかりとやっていただくしかないと思います。これまでも日本原燃の取組みや問題について説明がありましたが、今日ほど専門的で深い議論をすることはなかったと思います。私たちは、しっかりとしたお気持ちで携わっていらっしゃる皆さんのことを信頼していくしかないと思います。

【当社】 新規規制基準では自然災害に関して、あらゆる対策を考えております。竜巻は、当初は日本であり得ないと考えておりましたが、日本でもそれなり

の竜巻が観測されています。身近になかったものですがきちんと自分の問題として捉えて、対策をしなければいけないと再認識しております。

【委員】 十年ほど前に県内で竜巻が発生しました。あの時は初めてでとても驚きましたが、ああいう自然災害というのは否定できませんし、いつ何が起こるか予測もできません。

【当社】 そういう意味で、今回進めている重大事故対策は、様々な視点で想定しておりますが、どうしても想定ができない場合があります。そういったあらゆる状況に対応できるのは、車載した設備による対策です。これも同じ場所に全部保管するのではなく、保管場所も分けるとか、そういった対策もしています。

【委員】 ただ、皆さんがそれをきちんと理解して把握していないといけないと思います。上の方たちだけでなく、みんなが迅速に動けることが必要不可欠だと思います。そのため日頃の訓練が、非常に大事だと思います。

【当社】 おっしゃるとおりです。その辺のお話というのは、申し訳ないことに起こしてしまった福島の事故、そのものだと思います。当時、福島第二原子力発電所にいて感じたことは、電源車や、水を入れる施設があったらもっと楽だっただろうなど。ただ、いまおっしゃったように、持っていても使えなければ意味がない。これから皆さまにご確認いただきたいのは、訓練をいかにしっかりやっているかだと思います。色々な設備をツールとして持つということができれば、あとは、それを使いこなすのは人間ですので、訓練を徹底的にやりながら、我々は万が一に備える必要があると思います。こういった訓練をちゃんとやっているかどうかをご確認いただくのが、我々の活動がしっかり行われているかどうかのものさしになると思いますので、よろしく願いいたします。

【委員】 いつ何時起こるか分からないのが自然災害ですから、万全を尽くす必要があると考えます。

これは、働き方改革にとっても関係があり、やはり一番は人だと思います。福島の事故はチェルノブイリとスリーマイル島での事故とは全然違っていて、チェルノブイリは電源喪失事故を想定した訓練中に発生し、スリーマイル島はもつてのほかで、捜査員のミスで発生したわけです。そして今回の福島の事故は、自然災害だったわけです。人類はこの3つの事故から、もう起こしてはいけないんだと再度自覚し、多くを学ぶ必要があると思います。

また、原子燃料サイクルの国策的な問題と、欧米からのプルトニウムに対するいろいろな問題をどうクリアするかということが重要。日本原燃としては肅々と、MOX燃料も含めきちんと進めていく。役員皆さまが先導してや

ることは非常に大事だと思いますので、ここで言われたような課題解決の方策を進めて頂きたいと思います。

では、他の委員の方、ご意見ございますでしょうか。

【委員】 重大事故に向けての備えは、日本原燃もずっとやってこられていて、3.11の後にそれでは足りないので、さまざまな形で補いをするということだと思います。いつも日本原燃から「げんねんタイムズ」という広報チラシをいただいている、今回は防災訓練を実施したという内容でした。毎年、防災訓練を実施しているとのことで、多分、小規模のものは年に何十回もされていると思いますがいかがでしょうか。というのも、昨年、浜岡原子力発電所の視察時に、年に何百回も訓練をされているというお話を伺ったからです。その時に、浜岡原子力発電所のビジョンについて、どのような姿を描いているかお聞きしたところ「世界一を目指している」というお返事をいただいて、そういう気概で毎日過ごされているのだと少し驚きました。防波壁を拝見しても非常に立派で、友人や知人に「すごい備えだったよ」と話をしてしています。日本原燃も日本の国には無くてはならない施設です。六ヶ所村が「もう辞めた」と言った場合、国としてエネルギー事業をどうするのか、明日から石炭を焚くのか、薪を焚くのかわかりませんが、そういうことになっていくと思います。日本のエネルギーを支え、そして国民の皆さんの生活すべてを支えていると思っても良いと思います。

広報するには「今年は何十回、何百回訓練を行いました」などと記載すべきではないかと思えます。

また、訓練はいろいろな時間帯に設定しておやりになっていると思いますが、私たちが見て安心できるような、そういうアピールも必要ではないかと拝見して思いました。

そして、時々、協力会社の方々のヒヤリ・ハットミスなど緊張感の欠如から起きた問題が日本原燃全体の問題ということになっていますが、現場ではそのようなことがあっても国際学会から賞をいただいています。その乖離がかなりあるなと感じました。ですから、今回いろいろな働き方改革も含めて改善されていくと思いますけれども、本当に細かなところまでお知らせいただければ、県民は安心するかなと思います。

昨年、六ヶ所村の施設を改めて女性団体のリーダーたちで、見学させていただきました。視察後の反省会では、ご説明くださった方は非常に懇切丁寧にご説明いただいたのですが、専門家ではないから少し分かりにくい、という声がありました。性格も多岐にわたる施設があんなふうに整備されているというのは、私自身も今回再認識でき、いろいろな疑問が浮かびました。ま

たの機会にそれはお聞きするとして、安全対策をこの先もぜひ進めていただけたらありがたいと思います。

【当 社】 ありがとうございます。まず、訓練の回数は、どういう努力をしているのかが見え、皆さまの安心材料になると思います。こんなにやってるんですなどとお知らせすることは気が引けるところもあり、今まであまりお伝えしてこなかったと思います。今後は、皆さんの安心につなげるべく、表現の仕方を考えていきます。

あと訓練の実施については、我々も昼夜問わず行なっています。また、休日の夜中など人が手薄の時、その場合はどうするのかということも含めて訓練を行なっています。全体の訓練は年に数回ですが、個別の訓練は非常に多くやっています。その辺もしっかりとお知らせしていくようにします。

施設の見せ方や安全確保をどのようにしているのかなど、伝え方はなかなか難しいところがありますので、ぜひご意見、ご指導いただきながら、少しずつでもわかりやすくできればと思います。

チャールズ E ピエトリ賞について、これは核物質の保障措置技術への取り組みに対して評価していただいた賞となります。しかし、ご指摘にもありましたような通常の仕事の中にミスが多いじゃないか、怪我が多いじゃないか、というところは徹底して対策しなくてはいけないと思っています。

【委 員】 私どもは、北は札幌市から南は鹿児島県まで、約 13 団体と交流を行い、その感想を話し合っています。やはり、先ほどのご意見と同様に、「こんなにすばらしい施設があったのか」とか「すごい」など大変お褒めの言葉をいただいております。それは私も六ヶ所村民として嬉しく思います。

「働き方改革の取り組みについて」のお話を聞いて、今まではどうだったかと考えました。大変失礼な言い方になるかもしれませんが「俺の仕事はここまでだからいいや」などの雰囲気は、社内にあるように聞いておりますし、見ております。働き方改革は社員の意欲向上に繋がると思います。これからは隔々までコミュニケーションをとり、十分に話し合いを行い、社員一人一人に目を向けていただきたいと思います。というのは、途中でダウンする社員は六ヶ所村にもいます。実際に皆さんは見ていらっしゃると思いますけれども、コミュニケーションが足りないと思います。孤独を感じてそうなるのかもしれませんが、そういう方も、村の中でも何人もいます。今、副社長に説明いただいたことは、このようになったとしても社員への目配りを分担し、対応することで孤独を感じる社員はなくなるということと理解しております。今までそういう方も多く見ましたので、今後はこの機会にそういう方がないように、お願いしたいと思っています。

どうぞ頑張ってください。非常に難しいと思いますがやれると期待しております。

【委員】 どの職場でも働き方問題が一番大変だと私は思います。一生懸命働いている人、役員の人、それぞれのお立場で指導されてコミュニケーションを図っていくと思いますが、それを正確に受けとめて、快く運営していくというのは大変です。だからこそ、上の方は特に本当にご苦労さまだと思います。専門的なこともきちんとやらなければならないし、信頼されるためには人間性を問われますので。

【委員】 私、ガラス固化試験でトラブルが続いた時、何回も現場を見せてもらいましたし、意見交換会にも出ました。みんな一生懸命に、一つになって頑張っている姿を覚えています。あの雰囲気がとてもすばらしかったです。あのよう一つの職場が一つの目標に向かって取り組むことで、社員の方々の絆が強くなると思いました。みなさんが苦勞されている姿を見てきたので、本当に涙が出ました。社員の皆さんと私どもの成功したい、成功させたいという思いや、助け合いの気持ちが強かったと思います。その人たちは、その雰囲気がずっと忘れられないと思います。何か問題になったりすると、そのような結びつきや助け合う雰囲気のある職場が必要になると思います。是非お願いします。

【当社】 そのとおりだと思います。コミュニケーションの話は各所であるのですが、指標で確かめるのがとても難しいものです。私どもはアンケートを定期的に行っており、その傾向を見えています。ただ、評価がとても難いため、どの指標をうまく押さえていくと傾向がつかめるのか、現在試行錯誤しています。

今、一番気にしているのは、時間外労働についてです。早急に対応が必要な部署にまずは梃を入れ、仕事のやり方などを変えたりしています。部署異動を行うなど人も多少変えています。それによってやる気や手応えを感じれば仕事の効率も上がると思います。一方で仕事が忙しいと円滑に進まず悪いほうに行くと思いますので、油断なく対応して参ります。私はいろんな人から働き方についての声を聞きたいと思っています。組合にもいろんな意見がいきますし、説明の中にもありましたオフサイドコーディネーターの方々は社員と対話をしています。その時の意見や声を逃さないことが大事だろうと思っています。ただ聞いただけで終わると、信用してくれないと思います。働き方改革本部は意見をしっかりと受けとめてくれるんだと、社員に思っていたらできるように努力しなくてはならないと思っています。

- 【委員】 新規制基準の安全性向上対策工事について、新たな問題が出るたびに新たな対策案が出るので、いつ終わるのだろうと常に疑問がわくんです。
- 【当社】 重大事故対策について、現段階では新規制基準の許可をいただいております。今後許可をいただければ、しゅん工までに許可をいただいた対策を整備します。また、今我々がやらなければならないことは、保安規定にも定められている訓練をしっかりと行なうことです。そして、しゅん工までに設備を揃えることで、365日24時間体制で対応出来ることとなります。
- 【委員】 大変わかりやすい説明、ありがとうございます。私は六ヶ所村へ来て40年経ちますが、生まれ故郷に帰省したときには、地元の友人に会い、六ヶ所村についてよく自慢しています。六ヶ所村を見に来てほしいと帰るときに言います。ある日、友人が六ヶ所村を訪れたとき尾駮レイクタウンやむつ小川原石油備蓄基地などを見て「ここ、本当に村なのか」ととても驚いていました。その時に日本原燃も見せてもらうことができ、「これはすごい」と嘖然としていました。その後は3回ほど六ヶ所村を訪れ「しゅん工はいつか」と言われ、「もうすぐしゅん工だよ。世界でみんなびっくりするほどの企業だから心配するな」、「ああ、そうか、頑張れよ」と話をしました。
- 私は日本原燃を自慢に思っているの、一日も早いしゅん工を願うばかりです。皆さん、よろしくお願いします。
- 【当社】 重大事故安全性向上対策工事の最終的な姿については、「ここでも大丈夫です」と言ってしまつては、3.11と同じことになってしまいます。これで満足せず、昨日より今日、今日より明日という形で改善に努めて参ります。
- 【委員】 やはり柔軟に対応することは、非常に重要だと思っております。
- 【委員】 社長に質問ですけれども、福島で3.11をご経験されて、さまざまな創意工夫で乗り越えられたと伺っております。その時の話で非常用発電機を運んだところプラグとケーブルが合わなかったことなどが笑い話で言われていて、現実もそういうことがあるのではないのかと思います。多様なご経験を踏まえた上で、六ヶ所村ではどのように対処されるのかお考えをお聞かせください。
- 【当社】 ありがとうございます。おっしゃるとおりで、残念ながら、会社が違うと使い方が違ったりして、うまく繋がらなかったです。あとは、例えば、目の前に軽油がいっぱい入ったタンクがあったのですが、それを抜く道具を持っていないため、使うことが出来なかったのです。軽油が目の前にありながらも、わざわざ外から運んできてもらい、それをドラム缶に入れ、重機に入れる作業を行ないました。あとは、ケーブルですが、ケーブルを繋ぐには処

理が必要で、その技術を持っている人間が非常に少ないのです。情けない話ですが、「何だ、こんなのもできないのか」と言いながらやりました。

あとは、皆さんにも関係するのは、携帯電話が繋がらない時にどうするかということです。ホットラインといって直通回線で繋がるものがありますが、あれは相手が避難してしまった場合には全く意味がありません。また、衛星電話は外に出ないと繋がらず、福島第一原子力発電所が爆発してしまった後は、外には出られなかったことから価値がありませんでした。今は、原子力発電所は室内にアンテナを入れて、衛星電話を室内から使えるようになりました。事故の経験を教訓として学び、原子力発電所は対策に反映しております。当社も先ほどお示したような消防車とか給水車とか電源車等についても教訓が反映されているものです。

私は今、学校や自衛隊などで当時の教訓を話させていただく機会があり、そういう時には、避難した後の安否確認はどうしたらいいかなど、皆さんに役立つと思われる教訓をいろいろお話しさせていただいております。ぜひ機会がありましたら、そういうことも含めて紹介させていただきたいと思います。3月11日にできなかったことはたくさんありました。しかし、そこからいろいろなことを学ぶことができたとも思っています。

【委員】 イギリスでは発電所を量産するというような記事を見ました。しかし、これまで45基あったうち30基を休ませており、30年間休ませている間に技術者がいなくなったため、フランスや日本、韓国から技術者に来てもらうという話を目にしました。これは大事ですよ。やはり継続して学び技術をアップさせるような人材育成は、日本原燃がこれから続く会社として本当に重要だと思います。

【当社】 おっしゃるとおりだと思います。日本国内で原子力発電所の建設があまりないため、技術を培っていくことが難しく、技術を継承することが重要だと思います。

先ほど紹介しましたが、規制委員の皆さまより、人材育成をしっかりやってくれとご意見をいただいたことも、技術継承を心配しているところがあると思います。原子力発電所等の建設、運転、そして、廃炉も含めてしっかり育てないといけません。また、学校で原子力が魅力ある教科になれば、学生が集まらないと思いますので、それもやっていく必要があると思います。それは我々だけの問題だけではなくて、日本全体として考える必要があると思います。

- 【委員】 10年間休んでいる再処理工場ですけれども、休んでいた間、最低限のメンテナンスは行なっていたのでしょうか。
- 【当社】 行っていましたが、その中に情けない部分もあり、全ての設備を把握できていないということがありました。もう一度、再処理事業部長以下で全部総ざらいし、安心していただいた上で起動に持っていけるようにしたいと思います。
- 【当社】 現在、設備を全部把握し、管理できるように改善しております。その後、その設備に対してどういう点検頻度にするかなど見直していきたいと思っています。
- 【委員】 今は設備を動かすことは不可能だと思いますが、今後仮に動かしてみたいとなった場合でも動かさないのですよね。
- 【当社】 将来はそういう話も出てくると思います。動かさなければわからない系統の設備も出てくると思いますので、規制側と相談させていただきながら対応していきたいと思います。
- 【委員】 以前、建屋に雨水が流入した場所を見せてもらいましたが、本当に見えにくいところにあるのですね。改めてわざわざそのために見ないと見えないところにあり「えっ、ここが？」と感じました。こちらの点検をする方は社員ですか、それとも協力会社でしょうか。
- 【当社】 これが社員でなければいけないと私は思っています。ただ、今まではそれを協力会社に任せているところがかなりあります。当社社員が自分の設備であるにもかかわらず、全部協力会社の方に任せきりで、自分ではよく把握していなかったというのが問題だと思います。
- 【当社】 当社から協力会社に出したマニュアルそのものが間違っており、協力会社の方はきちんと対応していただいております。
- 【委員】 では、委託自体が間違った場所を指定していたというわけですね。それはまずいですね。
- 【当社】 当社社員が自分の設備として「こっちを見なければだめではないか」「ここから水が漏れてないか」と気付いていかないといけない。見やすいのか見えにくいのかも含めて理解しないといけないと思います。
- 【委員】 取り上げなくてもいいような小さなミスが多く見られますが、なぜこんな小さいミスが起きるのでしょうか。
- 【当社】 今、現場では気付きを高めようということをしていて、とにかく気付いたものに関しては全部吸い上げ、徹底的にやろうじゃないかとしています。したがって、気付きの数がものすごく増えています。その中で、社員だからこそ考えを深め、「これはおかしい」という気付きが増えている実感があります。

- 【当 社】 また、協力会社の人も含めて、当社設備を自分のものとして扱っていくということが必要だと思います。だからこそ、協力会社さんも含めて「一緒にやってみましょう」と我々はこれからもっと言い続けていきます。その辺の感覚が変わっていかないといけないと思います。
- 【委 員】 「俺はここだけ見ればいいんだ。他は見なくてもいいんだ」というわけではなく、みんなが責任を持って見るという意識を持たせることが大事ですよ。
- 【当 社】 自分の家だったら、いろいろなところを見ますよね。そういうつもりでちゃんと見てみなさいと。それを徹底していきたくと思います。当社と協力会社が一体になって設備を運用管理していくわけですから、そういう意味で、関係会社、協力会社の人たちともコミュニケーションをよくして、しっかりとやっています。
- 【委 員】 協力会社の人に対してのそういう教育は、一緒ではなくて別にやっているのですか。
- 【当 社】 協力会社の人には当社で働いてもらう場合は様々な教育をしてもらってから働いていただいています。当社からの期待事項を伝えることは必要なと思います。
- 【委 員】 わかりました。協力会社の皆さんも責任を持ちしっかりとやってくればいいなと思っています。
- 【委 員】 今回社長が先頭に立たれて、現地現場主義を通すということを宣言されてよかったなと思っています。たとえ2年であれ3年であれ、率先垂範をしていただいて、転勤のときには帰らないでくれと泣かれるぐらいにぜひ活躍いただきたいと思っています。よろしく願いいたします。
- 【当 社】 ありがとうございます。しっかりやらせていただきます。
- 【委 員】 続いて、ジュニアロボットコンテストについてですが、歴史が長いということを知りませんでした。賞品は子どもたちにどのようなものが出されているのでしょうか。
- 【当 社】 受賞された方にはメダルや賞状をお渡ししています。
- 【委 員】 原子力関係施設の視察などを賞品として、小さいときからさまざまな施設を見せてあげられる、そういうものもいいのではと思いました。
- 【当 社】 そうですね。昨日、テレビで放送されましたが、ジュニアロボットコンテストは20年目となり、10歳の頃参加したお子さんが30歳になりました。探したところ、現在はトヨタでロボットを製作している方がいまして、当日会場にご本人も見に来てくださったので私は話を聞きました。子供時代

に教わったことがとても大事で、時間を集中して物事を成し遂げていくというのは、あらゆる勉強に共通するのだそうです。みなさん成績がよくなると口を揃えて言っていました。これぐらいの世代でこのようなことをやっているというのは、日本国内はでここだけかもしれませんね。だからこそずっと続いているのだと思います。

【委員】 すばらしいですね。意外にも青森県民は知らないという方が多いと思いますのでもっと知っていただきたいです。

【委員】 働き方改革のところに、「パワハラ」や「ストレス」、「心を病む」という言葉が一つも出てきていませんでした。10年ほど前とは環境も変わり部下に対しての言い方一つをとっても注意しなければなりません。働き方改革というのは労働時間だけでなく、心を病んでいる人をどうするかも重要です。

【当社】 おっしゃるとおりだと思います。今は長時間労働の対策に偏っていますが、本来の働き方改革はメンタルケアなど複数あると思います。5月までにビジョンをつくる目標で進めております。長時間労働と過少申告は、継続して見っていますが、今のところ追加の申告はない状況となり、5月以降は3年計画にし、今おっしゃったような点も全部込みで、進めてまいりたいと思います。

【委員】 本日は委員の皆さまからいろいろなご意見をお聞きいたしました。ぜひ頑張っていたきたいと思います。また、地域の方々のサポートやご意見をしっかりと受けとめ、そして、情報をしっかりと共有していただきたいと思います。

【当社】 委員の皆さま、長い時間にわたりありがとうございました。多くの示唆に富むご意見を頂戴いたしましたので、今後の業務にて取り組んでまいりたいと思います。引き続きどうかご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

以上